自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0174700153		
法人名	社会福祉法人　上士幌福寿協会		
事業所名	認知症高齢者グループホームむかし館・くつろぎ		
所在地	河東郡上士幌町字上士幌東３線２４１・２線２４２番地		
自己評価作成日	令和6年2月2日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0174700153-00&ServiceCd=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

丁寧な関わりを通して最後までその人らしく、できることを続けていけるようサポートすることに力を入れています。ひとりひとりと寄り添い、その方を深く知り、親身になって関わることを意識しながら対応しています。コロナウィルスやインフルエンザなど、感染症に気をつけながら予防対策をしている状況ですが、むかし館では1月にインフルエンザが発生し、2名の利用者の方の感染がありました。今後さらに予防を徹底しながら対応していきたいと思います。感染対策として12月より面会制限を行なっているため、変化があるときには連絡したり、奇数月の個人広報発送にて状況を伝えるように心がけていました。5年度は人員の不足により勤務者が少ない状況で対応をしており、利用者の方へのこまかなサポート・対応や、ご家族への情報提供など十分ではなかったと考えています。また職員へも大きな負担をかけてしまったことがあり、今後について法人全体で検討していく必要があると考えています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西１１丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和6年3月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所を運営する社会福祉法人上士幌福寿協会は特別養護老人ホームとグループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所、地域密着型特別養護老人ホームと三つの地域密着型の事業所を運営しており町の総ての高齢者福祉事業を担っている。行政とは情報交換しながら一体となった事業展開を行っている。「利用者本位のサービス提供と自立支援を目指して」の法人理念を中心に据え、「基本に立ち返り、利用者の方が安心して生活が出来るようその人にあったケアを提供し関わることの出来る関係を目指します」をグループホーム理念として常に利用者に寄り添った支援を目指している。毎月のユニット会議の中では細かくカンファレンスを行い介護計画のサービス提供状況を毎日チェックして現状にあったサービス提供を心掛けている。今年度から記録は電算化されており、更に見守りセンサー導入で睡眠時の状態把握で安心な体制を整えている。新型コロナウイルスや、インフルエンザ対策で外出や地域との交流はまだ少ないが、地域交流室を使い地域貢献の一環として「居酒屋裏めし屋」を開きワンコインで食事が出来るよう取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者本位のサービス提供と自立支援を目指して」と理念を掲げている。日常的に見えるところに掲示してある。	法人理念を玄関、リビング、事務所に掲示し毎年の年度計画にも記載している。グループホームはそれを下に理念を定めパンフレットに記載し共通して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との関わりがほとんどなかった。	昨年度、今年度と新型コロナウイルスやインフルエンザ感染があり、地域との交流は以前通りにはなってはいないが、地域貢献の一環として予約制ではあるが、交流室で居酒屋風食堂を開催し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、事業所での活動状況などを知ってもらい意見交換している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や待機者状況など報告し、職場の現状など伝え意見交換している。	地域密着型の3事業所で合同の運営推進会議を開催している。事業計画、事業報告、実践研修等の発表を会議の中で行い質問や意見を得てサービス向上に活かしている。	年6回の開催と会議に出席していない利用者家族との情報共有を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	要介護認定の更新などの際に担当者と情報交換や意見交換を行っている。	町唯一の福祉事業を行っている法人であり、あらゆる場面での情報交換や意見交換を積極的に行い、連携を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人が主体となり身体拘束排除に向けた取り組みを日常的に行なっている。事業所にて年2回研修を行い、身体拘束排除について周知している。また事業所にて委員会を設置し、毎月検討している。	身体拘束廃止に向けては法人全体で適正化委員会を設置し、副管理者が委員と成って参加し各ユニット会議で報告し正しく理解し身体拘束の無い介護を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人が主体となり虐待防止に向けた取り組みを日常的に行なっている。事業所にて年2回研修を行い、虐待について学んでいる。また事業所にて委員会を設置し、毎月検討している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用事例がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書により説明している。また、利用者・家族から不安なことなどを聞き取り、その都度話をすることで理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方については日頃の関わりの中で聞き対応している。家族の方については電話連絡時や来館時に要望など聞いたり、個人広報などにより情報提供をしている。	昼食後の時間には比較的ゆったりとした時間が取れ、職員は談笑しながらそれとなく希望の確認をし記録して共有している。家族とは面会時や電話連絡の時に要望を把握し反映できるように取り組んでいる。2か月毎にお便りで様子をお知らせし好評を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の意見交換や毎月の会議にて機会を設け対応している。キャプションカードを活用し意見を引き出すようにしている。	毎月のユニット会議には目標の反省や改善に向けての話し合いを行っている。また、キャプションカードの活用で会議を活性化するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場を目指し規定など法人で変更している。現場では意見など言いやすい雰囲気作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けるなどの機会作りはできなかった。グループ内会議にてグループワーク形式での勉強会を実施している。副主任のスキルアップを図るため講師役を行なってもらっている。現場では日常的に疑問点など解消するよう対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報を見ることで終わり、外部との交流の機会を作ることはできなかった。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にじっくりと関わり、不安点や疑問点など解消できるよう関わり、混乱がないよう対応している。希望など含めて聞き、その情報を職員に周知することで関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの暮らしについて説明を行ない、家族の要望を取り入れながら不安解消に努めている、。来館されたときには近況を報告し、コミュニケーションを図るよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き、希望に添えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的には本人の思いによって一日を過ごしてもらっている。一日を通して今までの習慣など続けてもらえるよう関わっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化などあるときは随時連絡し、家族にも協力してもらい、ともに本人を支えられる関係を築けるよう努めている。また、個人向け広報の発送により本人の状況を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一旦面会ができるようになった際には来館時にお話ししてもらい関係作りを続けてきたが、再度面会制限を実施しており、会う機会が少なくなっている。	嘗ては知人に手紙を書くお手伝いをしたり、電話連絡や美容室への訪問の支援を行い関係継続を図ってきたが、コロナ禍で現在は交流が少なくなってきている。嘗ての趣味に取り組んでいる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方同士関わることができる空間作りに努めている。また、ひとりひとりの思いに沿った居場所作りを行なっている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であってもご家族が来館しお話に来たり募集しているタオルをなど持参してくれている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの習慣や会話の中から希望などを聞き、記録に残して把握するようにしている。	利用者の多くは昼食後の時間にリビングのソファでゆったりと寛いでおり、色々な話題の会話をしている。出来る限り将来の方向が見える様な話を進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、知人の方などから生活歴や暮らしの状況などを聞き、情報を職員間で共有し関わっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃良く関わり把握に努めている。毎月の会議にてカンファレンスを行ない、情報の共有に努めている。日常的な内容は随時話し合い変更している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から本人、家族と話し合い、随時または会議にてカンファレンスを行ない、現状に合った計画を立てるよう努めている。	介護計画は利用者、家族の要望を把握し毎月のユニット会議でカンファレンスを行い現状に即したサービス提供を心掛けている。毎日の記録は今年度から電算化されており今後は介護計画と連動が期待されている。現在は提供するサービスチェック表があり計画見直しに役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に落とし、必要と判断した内容については随時協議している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々の要望に応じてできる限り柔軟な支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりがほとんどなかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にし、地元協力病院にて相談、支援、治療を受けている。	町内クリニックが全員のかかりつけ医であり毎月往診を受けている。医師とグループホーム副管理者が協力して健康管理に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当職員と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針をもとに、あらかじめ話し合い家族の意向を確認している。また、カンファレンスにて終末期の関わりなど話し合い、ご家族にも相談し、方向性を出している。協力病院とも連携をとっている。	看取りに関する指針を策定し契約時にグループホームで出来る事を説明し意向確認をしている。ターミナルケアについての研修を行い最終的なケアが必要な時は医師、家族と連携を取って取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を実施している。緊急時対応のマニュアルを用意し、振り返りなど行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で年2回の訓練を実施している。災害時訓練も含め、対策を法人全体の取り組みとして実施している。	法人全体で各事業所別に同時期に避難訓練に取り組んでいる。今年度は夜間想定で行い更に地震時の避難訓練を図面上ではあるが行っている。業務継続計画は作成済みであり次年度には研修を行う予定である。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報取り扱いについては法人内規定（個人情報保護法）に従い取り扱っている。	毎年接遇の研修を行い言葉遣いやイントネーションに注意し、人格の尊重や誇りを傷つけない介護に取り組んでいる。個人情報保護についても慎重に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本は「受け入れる」ところから始め、時間をかけて自己決定に繋がるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望があった際には利用者優先を基本としている。どうしてもその時に叶えられない時には日程を調整するなど対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装など自分で選んでもらえるよう対応している。理美容は希望時来館してもらっている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものなどを聞き、下ごしらえなどできることは一緒に行なっている。	献立、調理は担当者が利用者の好みや希望を考慮しながら食材を見て、その日に決めている。下拵え等は利用者が行ったり、行事、誕生日は希望をお聞きし楽しい食事と成っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量に変化があるときは細かく記録に落としている。好みの飲み物や飲みやすい時間帯など把握しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、または就寝時に支援、声掛けしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分、排せつの記録からパターンや習慣を把握している。随時トイレでの排泄を対応している。	排泄記録はタブレット入力で細かく記録され習慣やパターンが把握できるようになっており、情報は共有され支援に活かされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保、食事量の把握、腹部マッサージや薬の調整など行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	朝からお湯を入れいつでも入れるようにしているが、人員不足により入浴できない日がある。	入浴は利用者の状況や状態を考慮しながら入浴剤を使用し楽しい時間になる様に取り組んでいる。大きめの浴槽にリフトを備えているユニットもあり利用者の状況でユニット変更を行い使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間のソファでうたた寝や1時間ほどの昼寝など、それぞれに過ごしている。起床時間もその方に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された際に内容を確認し、セットしている。変化があるときは病院へ連絡し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味、遊びなど役割や楽しみは人それぞれ感じ方が違うため、その方がしたいと思えることをしてもらえるように関わっている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な町外受診の他は施設周りを散歩する程度の外出しかできていない。	新型コロナウイルスの影響もあり自由な外出は出来ていないが、散歩や日光浴等の気分転換を行っている。施設のBBQハウスがあり焼肉を楽しんだり、付近の花見に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはこちらで預かり、希望時に希望の物を購入している。自分で持っていたい方については、契約者の方に話をし、同意を得て持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で生活できるよう設えを工夫している。時期物の飾りなどをし、季節を感じてもらえるようにしている。利用者の方にとって不都合が生じた場合には随時検討している。	天井から明かりが差し込む広いリビングがあるユニットと傾斜がついている天井で木の温もりが感じられるユニットがあり観葉植物や季節の飾り付けがされておりそれぞれにゆったり生活できる様に工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の希望する設えに近づけるよう日々工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物を飾ったり、今まで使っていた家具など持ってきてもらい工夫している。	二つのユニットはそれぞれタイプが異なっており、傾斜になった天井で木の温もりが感じられるユニットと、嘗てのケアハウスを利用しており二間続きの部屋や台所付きの部屋が用意されているユニットがあり、利用者は自宅から家具を持参して居心地よく生活できる様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使い慣れているものはこちらで動かさない、広すぎず狭すぎず、つかまれるところを作るなどして、一人一人が生活しやすいよう工夫している。		